

# 視聴覚教育

NO. 397

発行日

25. 11. 25

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

## 視聴覚用語

### 『Windows 8.1』

「Windows 7」の後継 OS である「Windows 8」の最新バージョン。スタートボタンの復活やスタート画面の改善といった、ユーザー・インターフェース面での改善・修正が加えられている。

## Ⅱ 視聴覚教育あれこれ Ⅱ 情報モラル教育の指導の充実を！

近頃、各種 SNS が児童・生徒の間に深く浸透しており、それに伴って様々な問題や事件が起こっている。岡崎市でも SNS でのやりとりからもめ事となり、大きな問題にまで発展した事件もある。全国的には、児童・生徒がインターネット上で不正アクセスを犯したり、犯罪に巻き込まれたりする例もある。児童・生徒の生活と情報ネットワークを切り離すことができない現代生活では、常に危険にさらされていると言っても過言ではない。

このような状況では、学校で情報モラルを取り上げ、児童・生徒がネットに対する正しい知識や理解を持ち、「何が危険なのか」を認識する機会をつくることは必須といえる。OKリンクのトップページには、情報モラルに関する情報や教材へのリンクが数多くある。これらを活用して、積極的に情報モラルに関する実践を行っていただきたい。

また、藤川小学校や大門小学校では、児童会が「情報モラルに関するアンケート」を行い、安全なネットの使い方について児童自身が考えていこうという取り組みを行っている。このような「児童・生徒自身が考え、自分たちでまきりをつくる」という活動もこれから非常に重要なものとなってくる。

教師がリテラシーやスキルを指導することと、児童・生徒が自発的に話し合ったりルールを作ったりすること、これらが相互に関連し合うことで、より情報モラル学習の効果が表れていくのではないだろうか。これからも各校において、積極的な情報モラル実践が積み重ねられていくことを願っている。

### 【お詫びと訂正】

月報「視聴覚教育」十月号の記事「実践報告」の執筆者が間違っておりまして。正しくは「大山 千加良」先生です。謹んでお詫びするとともに、訂正させていただきます。

## 葵中学校の研究が目指す教育の情報化

現職研修委員会学習情報部長 市川敏彦

まっすぐ伸びた挙手。真剣に交わされる意見。様々なデジタル機器を利用して、生き生きと学習に取り組む中学生の姿がたくさん見られた。

十月二十二日に行われた葵中学校の授業研究協議会では、全ての学級、全ての教科領域で ICT を活用した授業が公開された。研究主題は「学び合い・磨き合いを軸にした思考力・判断力・表現力の育成」であり、その方途として「ICT の幅広い活用法と生徒が自ら求めて ICT を活用する場の追究」が位置付けられている。

数学科の授業では、タブレット PC を用いて相似条件について考える授業が行われた。フリックによる直感的な操作によって、三角形の底辺に対する平行線を垂直方向に動かして様々な相似の三角形を自由に作ることで、思考ツールとして有効に働いていた。英語科の授業では、ペアワークによる暗唱練習の場面で 20 台のタブレット PC を利用していた。「音読」から「暗唱」の段階へとステップアップさせるために、視覚的な支援と個別学習を効果的に実現する手段として機能していた。

タブレット PC は、その多機能性や操作性、携帯性などの様々な利点から、教育の情報化の主役になっていくと目されている。しかし、タブレット PC を導入することが、そのまま授業の効率化につながったり、子供同士のコミュニケーションを促したりするわけではない。具体的に授業のどの場面で、どのように用いられ、どのような効果が得られるのかは、これから地道な実践と入念な検証が必要である。

教育の情報化において重要な視点は、ICT の有効活用によって授業改善が図られることである。ICT を用いてどこを効率化できるか、どの教材をデジタルで提示すればより効果的か。そのような授業の質を高める営みが教師の力量を向上させ、学びの成果となって表れるであろう。常に新たな手法を模索し、授業の幅を広げていくことが教師に求められている。

このような葵中の実践と研究は、来年に向けてさらに深められていくであろう。先導的な立場を自覚して行われている研究の成果を、それぞれの学校でぜひ吸収したい。教育の情報化は、学習指導要領において内容や方法が明示されており、必須の潮流である。岡崎市全体で ICT の利用を強く推進していくことが期待される。

## 実践報告Ⅱ 動画編集に挑戦しよう

岩津小学校 吉見 友里

最近では、誰にでも手軽に動画の撮影や編集ができるようになった。そこで本校の児童にも動画の撮影や編集の楽しさを感じてほしいと思い、Windowsムービーメーカーを利用して、放送委員会で作成を行った。Windowsムービーメーカーは、ほとんどのWindowsに標準で付属しているソフトで、機能が豊富な上に、簡単な操作で編集できることが特徴である。

放送委員会の児童四、六年生を五、六人の班に分けて活動させた。動画の撮影は、デジタルカメラの動画機能を使用した。テーマは自由に決めさせたところ、「先生クイズ」や「岩津小ダーツの旅」など様々なアイデアを生かして、どの班も積極的に撮影に取り組むことができた。



編集作業では、最初に基本的な操作を教え、その後、動画のトリミングや字幕入れなどの作業を進めさせた。児童は、「思ったよりも簡単に編集できるんだ」と楽しく取り組んでいた。

完成した作品は昼の放送で全校に放送した。放送委員会の児童は、「恥ずかしかったけど、みんなが楽しんでくれて嬉しかった」と満足気であった。六年生の中には、自分で動画を撮影して、映像制作に親しんでいる子もいる。今後も実践を続け、動画制作を続けていきたい。また、動画をアップロードすることのメリット・デメリットや、公開する際のモラルやルールについても指導し、児童のリテラシーを高めていきたい。

## Ⅱレッツ・トライⅡ

### 「スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ」

スマートフォンは、様々なアプリを利用することのできる便利なツールであり、最近では小学生にもスマートフォンを所有する子が増えつつある。しかし、一見便利で楽しく思われるスマートフォンの中には思いがけない危険も伴っており、こうした危険から子供たちを守るための情報モラル教育や、保護者によるペアレンタルコントロールが必要不可欠となってきた。そのためには、まず、大人がスマートフォンの利用に際し、どのような危険が伴うのかを理解しなければならぬが、大人の方がなかなかついていけないというのが現状である。

「スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ」は、大人がこうした危険を理解するのに適したアプリである。このアプリには、世の中で起きているスマートフォン利用に伴う被害事例が収録されており、それらを自分のスマートフォン上で疑似体験することができる。また、被害が起きてしまう仕組みやどのような結果になってしまうのかの解説もあり、スマートフォンを使いこなしていない大人にも理解できる内容となっている。このアプリは、App StoreまたはGoogle Playで「スマホにひそむ」と検索すると、アプリを無料でダウンロードできるページを見つかることができる。教師はもちろん、保護者にも紹介したいアプリである。



(愛宕小学校 学習情報主任 高瀬玲子)

## ライブブライデーだよ

### ●教材をご利用ください

ライブラリーではたくさんさんのビデオ、DVD教材の貸し出しをしています。昨年度は九十七本の教材を購入しました。年度初めに配布された「視聴覚教材・機器利用の手引き」に教材の一覧が掲載されています。また、ホームページでも検索が可能です。ぜひご利用ください。

### 【昨年度購入教材の一例】

・国語「話し合って考えよう

ディスカッションの仕方」

対象 中学生

・生活「地球をだっこ きせつをみつけ」

対象 小学生

・音楽「音楽の世界 日本音楽への招待」

対象 中学生

・保体「アニメでわかる！ インフルエンザ」

対象 中学生

・特活「ヒロシマの記憶 幻の原爆フィルムで

歩く広島」対象 小・中学生

・理科「BBCアテンボローがみた地球

〜多様な生物種を未来へ〜」

対象 小・中学生

### ●第11回ふるさと岡崎

#### メディアコンクールのお知らせ

「ふるさと岡崎メディアコンクール」の作品を募集中です。お手元に自作教材や児童・生徒の作品がある方は、ぜひ応募してください。また、自作教材が手元にない方は、この機会に作品作りに取り組んでみてはいかがでしょうか。

応募の締め切りは12月6日(金)です。詳細は、ライブラリーのホームページに掲載されています。

多くの方のご応募をお待ちしております。

